



働くて大変 でも、楽しかった ～2年職場体験学習を通して～

職場体験学習の事前学習として、12月16,17日に講師の先生をお招きして「生き方セミナー」を実施し、お話を伺いました。そこでは、あいさつの大切さや職業人としての意識、誇りについて学習しました。

そして、1月21日(火)～24日(金)の4日間、2年生193名が職場体験活動を行いました。碧南市内を中心に、飲食店、小売店、保育園、整備工場など85の事業所が東中生のために協力してくださいました。事前に行った希望調査をもとに体験先を決め、取り組みました。学校では学習できない、生きた体験ができました。体験にご協力いただいた事業所の方にあらためて感謝いたします。



岡村産婦人科で体験 岡部実波(2-4)

本当に貴重な体験をさせていただきました。産まれたばかりの赤ちゃんは、思ったよりも小さく、体重が500g違うだけでも赤ちゃんにとってはとても大きいということがよくわかりました。赤ちゃんの心音はとても速いこと、そして、看護師、助産師さんたちが本当に幸せそうに仕事をしていることがとても印象に残っています。また、「逆子」という言葉を知り、出産の大変さというものも学びました。この体験で、あらためて看護師、助産師っていいなと思いました。これから先、今回の貴重な体験を活かし、自分の将来につなげていけたらいいと思います。

<体験先で出会った方の言葉>

「幸せをもらえるお仕事ですよ」

美容室 SHU で体験 伊藤七海(2-1)

1日目はすごく緊張してやることもわかりませんでした。でも、店員さんが優しく教えてくれて、だんだん仕事にも慣れてきて楽しくなりました。掃除や洗濯物を干す、たたむばかりだったけど、店員さんの手があいたとき、美容師がやる仕事をたくさんやらせてもらいました。シャンプーやカット、パーマやアイロンなど、たくさんのが経験できました。普段経験できないことができてよかったです。「ありがとうございました」とお客さんにあいさつすることができました。この3日間、美容師として仕事をして、美容師も他の仕事も大変なことがわかりました。

<体験先で出会った方の言葉>

「帰る時間になっても今の仕事をやり終えていないと帰れない」

知っていましたか？東中新聞の「新」の字

右の図1に示した「東中新聞」の題字は毎年3回発行される「東中新聞」に使われているものです。

つい見逃してしまいそうですが、この「新」の字は、今使われている文字と比べると、横線が1本多いことに気づきます。

「新」の字の成り立ちは、「辛」（鋭い刃物）と「木」を合わせた字で、木を切ることを示しているそうです。だから、「新」の字は、切りたての木のことであり、切りたてで生々しい意味を表しているそうです。

その古い「新」の字を使っているということですから、この題字には歴史があります。この字を書かれた人は、本校20回生

（1967年3月卒業）の太田末也（旧姓伊藤）さんという方です。中学3年の時にこの字を書いたそうです。全国紙である朝日新聞の題字に同じ字が使われ、それを習って書かれたそうです。それ以来47年の時を経た今も使われていることを知り、あらためて東中学校の歴史の長さを実感しました。今年も卒業式当日にこの新聞は発行されます。その時に、題字を少し気にして歴史を感じてみてください。



図1

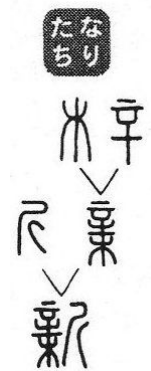
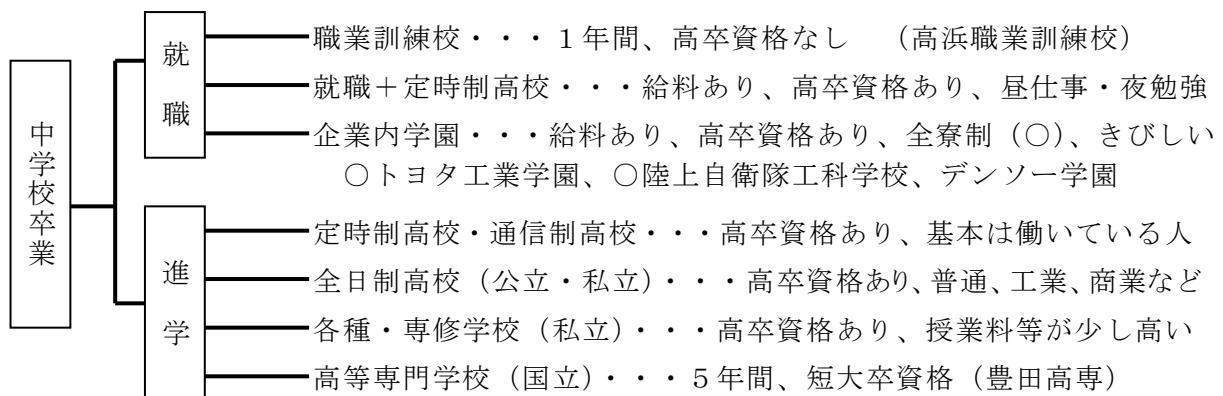


図2

2年生で進路説明会を開催しました ～2月4日～

中学校を卒業すると、以下のような進路の分岐があります。進学後も、後々は就職します。将来どんな職業に就くのか、職種によって中学校の卒業後の進路先が変わります。そこで、中学校の3年間で目指す職種に向け、早めにしっかりと自分自身の人生の設計図を描くことはとても大切です。そこで、今まで3年の一学期に行っていた進路説明会を2年のこの時期に開催しました。今年は、ハローワークの方から中卒者の就職状況、高卒者の就職状況や進路の選び方などのお話をいただきました。皆さんの知っている高校とは少しシステムの違う企業内学園としては、トヨタ工業学園、陸上自衛隊工科大学の2校からお話をいただきました。



今、3年生の皆さんは、企業内学園、私立高校の推薦入試、一般入試を終えてきました。卒業後の進路先が決まった生徒も少しずつ増えてきました。これから、公立高校の推薦入試、一般入試が行われます。自分の希望する進路に進めるよう、気持ちを強くもってがんばりましょう。